11/20 朝日

感染急増の現場 逼迫

大阪の保健所「パンク状態」

新型コロナウイルスの感染者が急増するなか、大阪府では保健所の業務が逼迫している。保健所による入院や療養の判断に遅れが出ており、判断を待つ感染者は19日現在8498人に上った。感染観察の対象を絞りながら、重症化リスクの高い感染者の容体悪化を見逃さないように努めている。

▼1面参照

「オミクロン株の患者が急増し、保健所はパンク状態です」。大阪府の新規感染者が過去最多の6101人になった19日、人口約40万人の中核市である枚方市保健所の白井千香所長は、厳しい表情でそう語った。

入院か自宅療養かなどを決める「疫学調査班」の部屋ではこの日、保健師ら職員十数人が感染者に電話をかけていた。

「高血圧なんですね」「水分は取れていますか？」。手元の資料をもとに問いかける。普段なら医療機関から感性の届け出があった翌日までには連絡できていたが、今は多くが4日後になっている。

このため、届け出の翌日には、いったん事務職員が感染者に連絡して、容体が急変した時の連絡先を伝える。疫学調査の手間を省くため、インターネットを通じて、感染者に同居家族や基礎疾患の有無などを記入してもらう市独自の仕組みも設けている。

変異株のオミクロン株の市中感染が枚方市で顕著きれたのは、昨年12月25日だった。1月14日には新規感染者が137人になり、第5波のピーク時の119人を超えた。18日も198人で最多を更新した。

オミクロン株の感染者は軽症か無症状が多いという。枚方市でも19日時点の重症者は2人にとどまっている。とはいえ、容体が急変していないかどうかの確認も保健所が担っている。

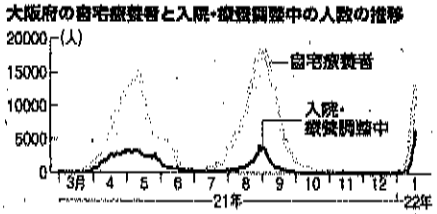
隣の部屋では、約20人の職員が自宅にいる療養者らに健康観察の電話をかけていた。

「37・5度以上のお熱は？」「酸素飽和度を聞いても良いですか？」。患者が不安に感じないように、丁寧に、細心の注意を払いながら話しかけていた。

療養者の情報を共有する会議に集まる枚方市保健所の職員＝19日午前、大阪府枚方市

「重症化見逃さないか緊張」

保健所が把握する患者が増えるほど業務が逼迫し、その中にいる重症化リスクのある人を見分けるのが難しくなる。療養者も増えていることから、市は10日ほど前から、健康観察の対象を市独自に絞っている。副所長の河田典子さんは「重症化リスクのある人を見逃さないか緊張している」という。



枚方市保健所の職員は新型コロナの感染が始まる前の60人から1220人態勢に増やして対応している。ただ、今回のオミクロン株の感染拡大を受けて、帰宅は深夜に及ぶ。昼休みも仕事を続ける職員には、「おにぎり、かじれる時にかじって」と声をかけていた。

全国保健所長会の副会長も務める白井さんは「保健所が把握や管理するのは、リスクの高い人に限ることが必要ではないか」と話す。

新型コロナに感染した疑いのある人を診る発熱外来のクリニックへ駆け込む人も急増している。

「第5波までとは比べものにならない」

大阪・ミナミの街中にある小島クリニック（大阪市中央区）の小島昭夫院長（62）は言う。

発熱外来の診療は昨年12月、1日1～2人程度で、来ない日もあった。1月の3連休明けから、予約を求める電話が殺到した。

クリニックの限界である1日20人近くを受け入れ、休日返上で診療もしているが、ここ数日は1日20人ほどを断らざるをえない。

小島院長は悔やむ。

「この発熱外来も今はキャパオーバーになっており、1千人単位の検査難民が出ているのではないか。行政は第6波に備え、発熱した人の検査態勢を整えておくべきだった」

（渡辺由希子、矢島大輔）

連絡1回 急変時に対応できるの？

新型コロナ感染者の急増を受け、大阪府は保健所業務の一部を縮小する。自宅療養者の健康観察や濃厚接触者の特定は重症化リスクが高い人や施設を除き、当事者に委ねるが、体調急変時の対応や感染防止などをめぐる課題も横たわる。

吉村洋文知事は19日の記者会見で「新規感染者が1日5千人、6千人となり、保健所ですべてやるという発想は転換しなければならない」と語った。

保健所は感染者の状態把握や対応方針決定のための連絡「ファーストタッチ」をすべての感染者に実施するが、これ以降、重症化リスクの低い自宅療養者らは相談・受診などを自ら判断しなければならない。しかし、体調の急変時に連絡する余裕がなく、家族も気付けない恐れもある。

感染者が出た事務所には濃厚接触者の捕捉や自宅待機・検査の呼びかけを求める。専門家ではないため、混乱や対応の遅れ・漏れが生じかねず、感染拡大につながる可能性もある。

府は自宅療養者らの「受け皿」として24時間電話窓口「自宅待機SOS」（0570・055222-1）を設け、府ホームページに医療機関を掲載するが、その周知徹底も課題だ。

（渡辺憲）